

ワールドトライアスロンシリーズ (2023/横浜) ワールドトライアスロンパラシリーズ (2023/横浜)

WORLD TRIATHLON CHAMPIONSHIP SERIES
YOKOHAMA | 2023



World Triathlon
Championship Series
YOKOHAMA
2023



OPEN
YOKOHAMA

一般ボランティア GUIDE

2023年4月20日 版

Name _____

1、はじめに		
1-1)	目次	P2
2、大会概要		
2-1)	はじめに	P4
2-2)	開催趣旨	P5
2-3)	ニューノーマルの大会運営／持続可能な大会を目指して	P6
2-4)	ワールドトライアスロンシリーズとは	P7
2-5)	オール横浜による大会支援パートナー	P8
2-6)	開催概要	P9
2-7)	エリート競技スケジュール	P10
2-8)	エイジ競技スケジュール	P11
2-9)	エリートパラコースマップ	P12
2-10)	エリートコースマップ	P13
2-11)	エイジパラコースマップ	P14
2-12)	エイジコースマップ	P15
2-13)	会場本部／配置図	P16
3、ボランティアGUIDE		
3-1)	はじめにお読みください	P18
3-2)	ボランティア活動の心構え	P19
3-3)	おもてなし 一介助のワンポイントアドバイスー	P20
3-4)	各配置ボランティアの活動の流れ	P21
4、トライアスロン基本用語集		P22



World Triathlon
Championship Series
YOKOHAMA
2023



大会概要

はじめに

横浜開港150周年を機に、2009年からスタートした「ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会」は、2023大会で13回目の開催を迎えます。おかげさまで、「トライアスロン・パラトライアスロンの街 横浜」の存在感は、今や揺るぎないものになっています。長年にわたり、ここ横浜の地で、世界最高峰の大会を開催できることは、協賛パートナーの皆様をはじめ、関係機関・団体の皆様の大きなお力添えの賜物です。厚く御礼申し上げます。

コロナ禍は、スポーツを取り巻く環境に様々な変化をもたらしています。多くのスポーツ大会が、それぞれに様々な工夫を凝らしながら、この感染症に立ち向かってきました。2022大会も、多くの皆様の御協力のもと、万全の感染症対策を講じ、ついに3年ぶりに有観客での開催が叶いました。沿道からの拍手の応援に囲まれ、熱いレースを繰り広げるアスリートの皆様の姿は、横浜の街に、そして世界中に、感動と興奮を届けてくださいました。

来る2023大会では、これまで積み重ねてきた大会運営の経験を生かし、最良の環境で、選手の皆様をはじめ、大会に関わるすべての皆様をお迎えいたします。そして、スポーツの力で、横浜の街をより一層大きく盛り上げてまいります。

2023年、皆様とお会いできるのを楽しみにしております。



世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会 会長
横浜市長 山中 竹春



開催にあたって

横浜ならではの新たな賑わいの創出

2022大会は、2019大会までの「平時における大会運営」と2021大会の「withコロナの大会運営」を踏まえ、「ニューノーマルの大会運営」として、適切な安全対策を講じて大会を開催し、前回大会同様に誰一人の陽性者を出さず大会を成功裡に終了することができました。

2023大会では、これまでの経験を生かしながら、2022年の「ニューノーマルの大会運営」を踏襲し、社会状況に適応した大会運営を実現することで、さらなる大会の発展を目指します。また、横浜大会では「地球環境に優しいトライアスロン大会」を掲げ、大会運営に取り組んでいることから、SDGsの目標達成に向け、認証を継続取得している「ISO20121(イベントの持続可能性マネジメントシステム)」の活動に、海と陸の環境を軸とした目標を設定し、適切なイベントマネジメントサイクルを運用することで、持続可能な大会運営を目指してまいります。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々のライフスタイルや価値観の変化に大きな影響を与えており、スポーツを取り巻く環境も大きく変わりました。新型コロナウイルス感染症がピーク時に比べ減少傾向になり、多くのスポーツイベントが開催されるようになったことで、再びスポーツへの関心が高まり、スポーツを「する・みる・ささえる」人が増えてきています。

2023大会の開催に向けては、スポーツ・トライアスロンが持つチカラで横浜の地域課題の解決や地域経済の活性化に取り組むとともに、ニューノーマル時代を見据え、協賛パートナーとの共創やデジタル技術の活用などにより、横浜ならではの新たな賑わいを創出してまいります。

大会コンセプト



1 トライアスロン・パラトライアスロンの街、横浜の推進

世界で一番安全・安心でホスピタリティに溢れ、満足度の高い大会を持続的に開催し、次世代を担うことも遠くははじめ、誰もがトライアスロン・パラトライアスロンに参加・携わることができる機会を醸成することで、様々な場面で活躍できる人材をレガシーとして残すとともに、市民のスポーツへの参加意欲を高めて健康増進を図るなど、横浜の街づくりを推進します。

2 国際都市横浜を世界へ情報発信

映像配信やテレビ放映、大会ウェブサイトやSNSなど、様々な広報媒体を活用して国際都市横浜の多彩な魅力を国内はもとより海外へ発信することにより、地域経済の活性化や都市ブランド等のさらなる向上を図ります。

3 すべての人が互いに認め合い共に生きていく社会づくり

人種・価値観・障がいの有無などにかかわらず、様々な人が大会に参加・携わることができる多様性のある大会運営を行うことで、すべての人が自分らしく輝き、共に生きていく社会づくり(ソーシャル・インクルージョン)に貢献します。

4 スポーツツーリズム推進による横浜の地域経済の活性化

国内外から国際都市横浜へお迎えした多くの参加者や観戦者等と横浜の観光とを融合させて、横浜の街の新たな魅力の発見につなげるとともに、トライアスロンの「する、みる、ささえる」を通じたスポーツ観光に取り組むことで、横浜の都市ブランド向上と地域経済への波及に寄与します。

5 大会運営を通じた地球環境の保全と創造への取り組み

関係団体と連携した横浜港の水質環境の改善や参加者等の皆様からお預かりした環境協力金によるカーボンオフセットを行うことにより、地球環境への負荷軽減の取り組みを進めるなど、サステナビリティの高い大会運営を行うことでイベントの持続可能性をサポートするための国際規格であるISO20121認証を継続して取得するほか、海と陸の環境を軸としたSDGsへの取り組みを進めます。

6 パートナーシップによる大会づくり(感謝そして未来へ)

持続可能性に配慮した大会の実現に向けて、協賛パートナーとの活発な共創による連携事業の推進はもとより、大会関係機関、協力会社、ボランティアなど、様々な方々とのパートナーシップを築き、誰もが主役の開かれた大会を多くの方々の参加・協働により共に創り上げていきます。

－世界に評価されたニューノーマルの大会運営－

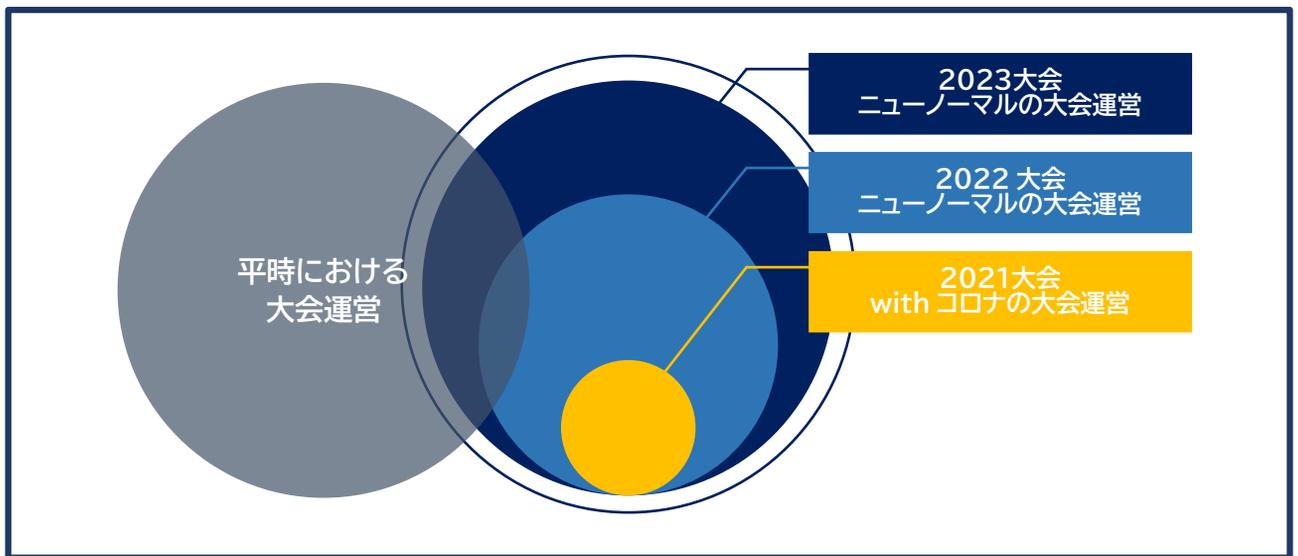
2021大会での経験を生かし、2022WTCS横浜大会は「ニューノーマルの大会運営」を構築して、新型コロナウイルス感染症の影響の収束がみえない中ではありましたが、積極的な観戦誘導はしなかったものの3年ぶりに有観客で大会を開催することができました。また、ハマトラFESの開催や観客席の設置等を通じて、横浜に再び賑わいを創出することに成功し、参加者・関係者の笑顔溢れる大会を創り上げることが出来ました。

先進国の中でも特に厳しい水際対策を講じている日本では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されて以降、最大規模の国際スポーツ大会の開催となりました。国際競技団体であるワールドトライアスロンからは、例年以上に運営の素晴らしさが認められ「世界で最も愛されている大会」の一つとして好評を得るとともに、シーズン初戦に完璧なスタートを切ることができたと高い評価を受けるに至りました。

－ニューノーマルの大会運営 ～横浜ならではの新たな賑わいの創出～

2023大会の開催に向けては、これまでの経験を融合させた上で、2022大会の「ニューノーマルの大会運営」を踏襲し、状況に応じた安全対策の構築に取り組みます。

社会状況に対応して、計画をフレキシブルに変化させることで、最善の方法を選択し、誰もが安全に安心して参加できる大会を目指してまいります。



－持続可能な大会を目指して－

環境への取り組み

持続可能な大会運営を目指し、横浜大会では「地球環境に優しいトライアスロン大会」を掲げ、大会運営に取り組んでいます。

2009年の大会開催初年度には、山下公園前海域の水質浄化実験を行い、海域生物による浄化能力の高い海づくりが重要であることを認識しました。それ以降、横浜市と連携し、各種環境事業に取り組んでいます。

2012大会では、イベントマネジメント国際標準規格「ISO20121(イベントの持続可能性マネジメントシステム)」を我が国で初めて認証取得し、2013大会からは、組織委員会による3年ごとの更新認証へ変更して、認証を継続取得しています。

大会を継続開催する中で、トライアスロンを通じ「多岐にわたる貢献を果たす」ことが重要と考え、環境への取り組みを軸として、大会運営をはじめ様々な取り組みを推進し、持続可能でより良い世界を目指すSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでまいります。

ワールドトライアスロンシリーズとは

「ワールドトライアスロンシリーズ(WTCS)」は、世界を転戦しながらポイントを獲得し、年間のチャンピオンを決定するシリーズ戦で、オリンピックに繋がる世界最高峰の大会です。

横浜では、2009年の横浜開港150周年記念事業を機に世界シリーズ設置初年度から開催し、2023年は13度目の開催となります。パラトライアスロン競技は、2011年から横浜で実施され、リオ2016パラリンピックから正式競技となりました。2017年から世界シリーズ化され、横浜は2023年で世界最多6度目の開催となります。(ワールドトライアスロンパラシリーズ:WTPS)

また、ワールドトライアスロンシリーズに併設されたエイジ大会は、「エイジグループナショナルチャンピオンシップシリーズ」として、16歳から80歳まで、約1,700名の幅広い年齢層の参加者がトップレベルの熱い熱戦を繰り広げます。



2023シリーズ開催地(2023年4月19日現在)

開催日程	開催都市
3月3日-4日	アブダビ(UAE)
5月13日-14日	横浜(日本) ※13回目
5月27日-28日	カリアリ(イタリア)
6月24日-25日	モントリオール(カナダ)
7月15日-16日	ハンブルク(ドイツ)
7月29日-30日	サンダーランド(イギリス)
9月23日-24日	ポンテベトラ(スペイン) ※ファイナル(最終戦)



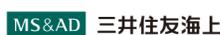
1 オール横浜による大会支援

地元経済界より、多くの企業・団体、個人の皆さまにご支援をいただき、本大会を開催しています。

Main Partners



Silver Partners



Yokohama Supporters



Foundation



Host City



Federation



開催概要

項目	内容
大会名称	ワールドトライアスロンシリーズ(2023/横浜) ワールドトライアスロンパラシリーズ(2023/横浜)
ランキング指定	- World Triathlon Individual Olympic Qualification Ranking:Paris2024 - World Triathlon Rankings - World Triathlon Para Rankings - 2023エイジグループ・ナショナルチャンピオンシップシリーズ
開催日程	2023年5月13日(土)・5月14日(日) 5月13日:エリートパラトライアスロン、エリート 5月14日:エイジグループ(パラトライアスロン、スタンダード、スプリント、リレー)
会場	横浜市山下公園周辺特設会場(山下公園スタート・フィニッシュ)
主催	世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会
後援(予定)	外務省、スポーツ庁、観光庁、神奈川県、日本オリンピック委員会、日本スポーツ協会、日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会、日本イベント産業振興協会、日本スポーツツーリズム推進機構、神奈川県スポーツ協会、横浜商工会議所、横浜港運協会、神奈川経済同友会、神奈川県経営者協会、横浜銀行協会、横浜港振興協会、横浜青年会議所、横浜貿易協会、神奈川新聞社、NHK横浜放送局、tvk、FMヨコハマ、アール・エフ・ラジオ日本
主管	神奈川県トライアスロン連合
協賛	メインパートナー :ENEOS、NTT東日本 シルバーパートナー :日清オイリオグループ、三菱電機グループ、コカ・コーラボトラーズジャパン、JTB、イオン、日産自動車、アシックス、キタムラ、スタージュエリー、リスト サザビーズ インターナショナル リアルティ、三井住友海上火災保険、ブリヂストン、ぴあ、ホテルニューグランド
助成団体(予定)	日本スポーツ振興センター、横浜こどもスポーツ基金、ミズノスポーツ振興財団
中継等(予定)	・NHK BS1 2023年5月13日(土)10時-15時15分/生放送 ・インターネット中継:WT TV(triathlon.tv)による全競技ライブ配信 *WTメディアを通じた世界190以上の国と地域に配信

大会情報

5月13日(土)		5月14日(日)	
06:50 - エリートパラトライアスロン 10:16 - エリート女子 13:06 - エリート男子		7:15-14:00	エイジグループ
エリートパラトライアスロン	エリート	エイジグループ	
80名 スプリントディスタンス (25.75Km)	120名 (女子・男子各60名) スタンダードディスタンス (51.5Km)	スタンダード 1,250名 リレー 50組(150名) スタンダードディスタンス (51.5Km)	スプリント 300名 パラトライアスロン 40名 スプリントディスタンス (25.75Km)
★スイム(0.75km) 山下公園前面海域 ★バイク(20km) 山下公園→日本大通り →横浜税関前→ワールド ポーターズ→赤レンガ倉庫 →大さん橋前→山下公園 ★ラン(5km) 山下公園→日本大通り →横浜税関前→大さん橋前 →山下公園	★スイム(1.5km) 山下公園前面海域 ★バイク(40km) 山下公園→日本大通り →横浜税関前→ワールド ポーターズ→赤レンガ倉庫 →大さん橋前→山下公園 ★ラン(10km) 山下公園→日本大通り →横浜税関前→大さん橋前 →山下公園	★スイム(1.5km) 山下公園前面海域 ★バイク(40km) 山下公園→山下ふ頭→本牧ふ 頭方面→山下公園 ★ラン(10km) 山下公園→赤レンガ倉庫 →象の鼻パーク周辺 →山下公園	★スイム(0.75km) 山下公園前面海域 ★バイク(20km) 山下公園→山下ふ頭→本牧ふ 頭方面→山下公園 ★ラン(5km) 山下公園→赤レンガ倉庫 →象の鼻パーク周辺 →山下公園
交通規制時間(予定)			
6:30-15:20		7:00-14:00	

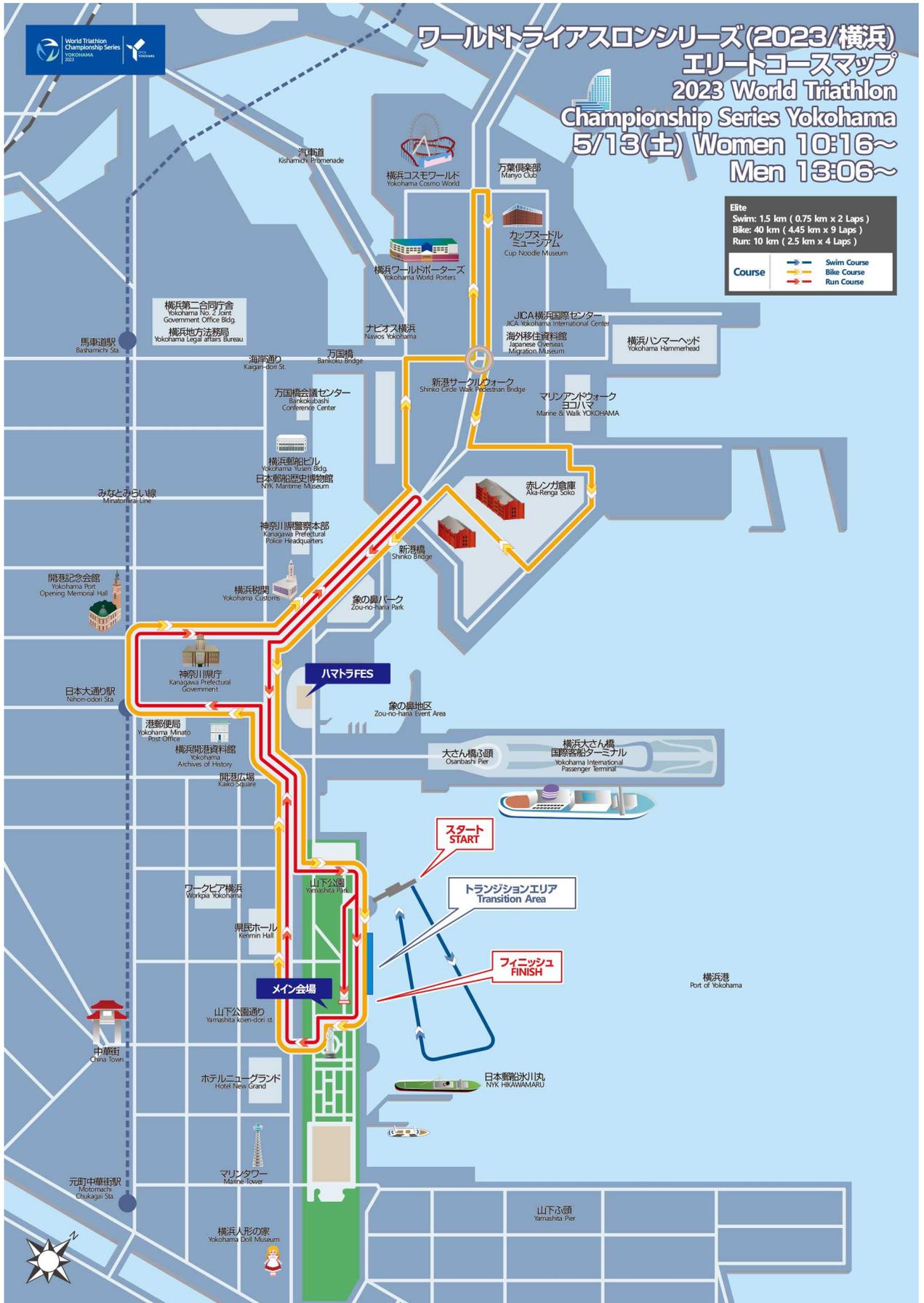
5月13日（土）

スケジュール		選手競技時間	
		先頭	最後尾
◎交通規制開始		6 : 30	
コース設営		6 : 30 – 6 : 50	
エリート パラトライアスロン	スイムスタート	6 : 50	
	スイムフィニッシュ	7 : 00	7 : 53
	バイクスタート	7 : 01	7 : 54
	バイクフィニッシュ	7 : 30	8 : 32
	ランスタート	7 : 31	8 : 33
	フィニッシュ	7 : 51	8 : 53
エリート女子	スイムスタート	10 : 16	
	スイム1周目	10 : 24	10 : 25
	スイムフィニッシュ	10 : 33	10 : 36
	バイクスタート	10 : 34	10 : 37
	バイクフィニッシュ	11 : 35	11 : 40
	ランスタート	11 : 36	11 : 41
	フィニッシュ	12 : 10	12 : 25
エリート男子	スイムスタート	13 : 06	
	スイム1周目	13 : 13	13 : 15
	スイムフィニッシュ	13 : 21	13 : 25
	バイクスタート	13 : 22	13 : 26
	バイクフィニッシュ	14 : 19	14 : 29
	ランスタート	14 : 20	14 : 30
	フィニッシュ	14 : 50	15 : 06
コース撤収		15 : 06 – 15 : 20	
◎交通規制解除		15 : 20	

5月14日（日）

スケジュール	選手競技時間	
	先頭	最後尾
◎ 交通規制開始	7:00頃	
コース設営	7:00～7:35（バイクスタートまでに公道設営）	
スイムスタート	7:15	11 : 30
スイムフィニッシュ バイクスタート	7 : 25	11 : 55
バイクフィニッシュ ランスタート	8 : 01	12 : 52
（トップフィニッシュ）	8 : 21	—
バイクコース撤収	～ 13:20頃	
◎ 交通規制解除	14:00頃（バイクコース13:20頃）	
ラン最終フィニッシュ	—	14:10

エリートコースマップ



会場（本部）配置図



トライアスロン特設メイン会場
大会本部

LOC本部
(ホテルニューグランド)



LOC本部

ホテルニューグランド
【住所】 横浜市中区山下町 10番地

大会本部 ☎ 045-680-5538



World Triathlon
Championship Series
YOKOHAMA
2023



ボランティアGUIDE

はじめにお読みください

本大会には、エリート選手約200名、エイジ選手約1,700名の選手が参加します。

併せて、約3,500名のボランティア、スタッフのチカラで支えられています。

公道を使用した大会でもあり、各種規制の中、開催します。

また、国際大会で定められた様々なルールのもと開催します。ボランティア活動にあたっては、絶対に時間は守っていただくよう、ご協力をお願いいたします。

支えるチカラを結集し、世界最高で最幸の大会を作り上げましょう！

必ずお読みください

体調面

- 活動前の発熱時や体調不良を感じた場合は、大会参加及び業務、ボランティア協力を取りやめてください。
- 最高のおもてなしをするうえで、体調が万全であることは必要不可欠です。活動中、体調が悪くなった場合には、無理をせず、休憩を取るようしてください。
- トライアスロンは屋外で行う競技であり、短時間で天候や気候・気温が変化することもあります。適切な判断で活動を行うよう心がけてください。
※雨天時に備え、雨具の準備や防寒対策は各自でお願いいたします。
- 自分のペースを守り、早めの水分および塩分の補給を心がけてください。

安全面

- 緊急時には、競技中であっても競技を中断する場合があります。ボランティア活動も同様です。
- 危険・妨害行為は禁止です。活動中は十分に注意し、行動するようにしてください。
- ボランティア活動中、活動エリアでの飲食・喫煙は原則として、禁止とさせていただきます。緊急時を除き、ボランティアウェア（活動場所によってはID）を脱ぐなどし、食事をとるようにしてください。
- 活動中、競技風景等の写真を撮影することは禁止です。また、活動中の携帯電話の操作は原則として禁止とさせていただきます。

気象状況

- 気象状況等により、競技内容に変更がある場合は、審判員またはリーダーから説明を行います。
- 競技スタート後でも、気象状況の急変により、競技の中止または、変更する場合があります。



ボランティア活動の心構え

ボランティア活動が自分にとっても、相手にとっても、より有意義なものになるためには・・・

- ・自分らしい「おもてなし」を実践しましょう
- ・自分から積極的に動いていきましょう
- ・自分の言葉に責任を持ちましょう
- ・WTCSボランティアを楽しみましょう
- ・素晴らしい大会を一緒に作っていきましょう

2023ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会ボランティアとして

1	身の回りのことから手がけましょう。	参加者や観戦者へ「笑顔」で「元気」にあいさつしましょう。
2	約束は守りましょう。	ボランティア活動はみずから、進んで行うものです。当日は団体行動になりますので、集合時間や休憩時間など約束事項は守りましょう。
3	秘密は守りましょう。	活動の中でいろいろ知り得る事柄があります。秘密を守ることは、円滑に運営するためにも、信頼関係をつくるためにも大切です。
4	相手のニーズに合わせて活動しましょう。	自分勝手な行動をせず、相手の立場に立ってものごとを考え行動しましょう。
5	周りの理解と協力を得ておきましょう。	家族の理解と協力、また、職場、学校などで理解と関心をもってもらうことも大切です。
6	確認や相談をしましょう。	「まー、大丈夫と思うことが事故の第一歩です」必ず、リーダーに相談しましょう。
7	無理やがんだりすぎないで、活動をしましょう。	活動中に体調や気分が優れない時は、リーダーに伝えましょう。

ボランティア業務は、「やってあげる」ものではありません。

マナーを守り、無理をせず、参加者と一緒に楽しみながら「やりたいからやる」ものです。自発的な参加であるからこそ、お金では得られない「出会い」「発見」「感動」があります。

おもてなし – 介助のワンポイントアドバイス –

誰にも大会を楽しんでいただけるようお手伝いをしましょう。**安全で安心**な介助の基本を紹介します。

① 声かけ

コミュニケーションの第一歩は声をかけることから始まります。

困っている方がいたら積極的に声をかけましょう。

② 車いすご利用の方への接し方

・目線の高さに気を付けましょう。

立ったまま話しかけると威圧的に感じる方もいらっしゃいます。

・ブレーキがかかっているか確認しましょう！

人や荷物に触れると動いてしまいます。

③ 視覚に障がいのある方への接し方

・笑顔で声かけしましょう。

・名乗りましょう。

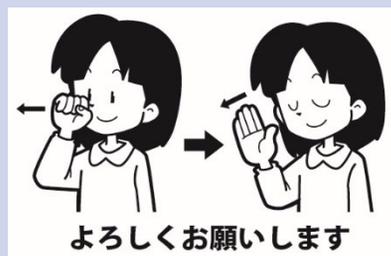
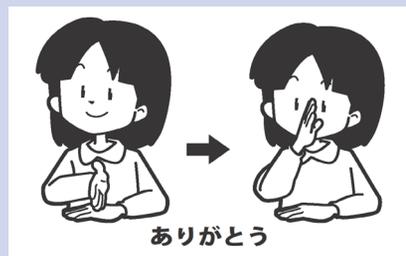
・具体的な説明を心がけましょう。

「向こうに・・・」ってどっち？ → 1時の方向3メートルほど先に！

④ 聴覚に障がいのある方への接し方

・あなたとコミュニケーションを取りたい気持ちを伝えましょう。

・挨拶の手話を覚えましょう。



各配置ボランティアの活動の流れ

活動にあたっての流れ



— 各担当セクションへ集合 —

- ・ボランティアユニフォーム（Tシャツ・帽子）を着用。
- ・大会コントロール上、区別をするため洋服の一番上に着てください。
※雨天時に備え、雨合羽は各自で準備をお願いいたします。
- ・各セクションでは、リーダー（大会スタッフ）の指示に従い活動をお願いします。
※エイドステーションやコース設営などは、審判員から活動内容や役割等説明があります。
協力して準備をお願いします。
- ・活動中不明な事項は、リーダー（黒のポロシャツ又はTシャツ着用）に相談して、指示を受けてください。
- ・休憩は、リーダーの指示に従いお願いします。
- ・天候等の理由で、急遽業務に変更や追加がある場合があります。
臨機応変にご対応をお願いします。
※気分が悪くなった場合は、無理をせず、リーダーへ申し出てください。
- ・大会スタッフ（リーダー）の指示により、各現場ごとに解散。
- ・活動終了後1週間以内に体調不良となった場合には大会事務局へご連絡ください。



リーダー着用Tシャツ

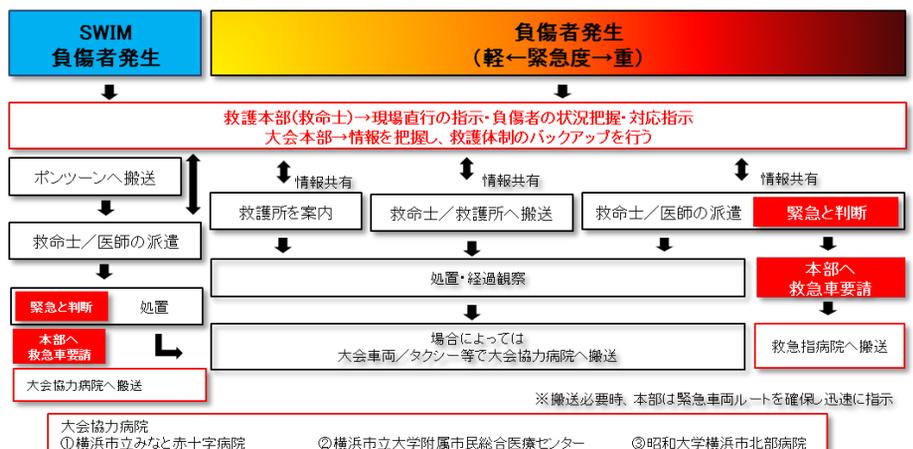
— おつかれさまでした —

注意事項

- 本大会の本部について
本大会の開催中は下記に本部を設置しています。
ホテルニューグランド内「LOC本部」/ 山下公園内「大会運営本部テント」（※P.14会場配置図参照）
- 業務開始 & 業務終了の確認・管理
止むを得ない理由で当日参加できなくなったり遅刻する場合は、必ず**大会本部（LOC本部）**に電話連絡をしてください。
電話：045-680-5538
- 服装・手荷物
 - 立ち仕事が多いため、動きやすい服装と履きなれた靴で活動してください。
 - 活動中は、大会ユニフォーム（Tシャツ・帽子）を着用していただきます。
 - 貴重品は、各自で責任を持って保管してください。
事務局では荷物のお預かり所等の設置を予定していません、予めご了承ください。
 - 緊急時を除き、ボランティアウェア（活動場所によってはID）を脱ぐなどし、食事をとるようにしてください。
 - 雨天の場合等に備え、雨合羽等は各自でご用意をお願いいたします。なお、活動場所によっては、傘をさしての活動は禁止となります。
- 中止の連絡
大会当日、5時頃に大会ホームページでお知らせします。必ず、ご確認ください。

救護体制・安全対策

- ・救護所は、赤白テントです。
【設置場所】
13日（土）
山下公園内、神奈川県庁内
14日（日）
山下公園内、山下ふ頭内
赤レンガ倉庫
- ・救急救命士を、コース内に配置
- ・傷病者を発見した場合、大会スタッフ（リーダー）へお伝えください。



- 大会協力病院
①横浜市立みなと赤十字病院 ②横浜市立大学附属市民総合医療センター ③昭和大学横浜市北部病院

トライアスロン基本用語

トライアスロン	ラテン語の3を表す「トライ」と、競技を意味する「アスロン」の合成語。スイム（水泳）、バイク（自転車）、ラン（ランニング）の3種目を1人の競技者が連続して行う事が基本。1974年にアメリカのカリフォルニア州サンディエゴで始めて競技として行われた。種目をスキーやマウンテンバイクに置き換え、3種目で構成される競技（ウインタートライアスロンなど）もある。
トライアスリート	トライアスロンに参加する、あるいは参加を目指す選手のこと。
スタンダードディスタンス	スイム1.5 k m、バイク40 k m、ラン10 k m、の合計51.5 k mのトライアスロンの名称。世界のトライアスロンの80%強はこの距離で行われている。
スプリントディスタンス	スタンダードディスタンスの半分の距離で行われる。
エリート	トップ選手の呼称。一般選手と区別して競技をスタートすることも多い。今大会は5月13日。
エイジグループ	一般参加の選手。今大会は5月14日。
レジストレーション	選手登録のこと。バイク、バイクヘルメット、ウェットスーツなどの用具の検査が同時に行われる場合がある。
レースナンバー	大会ごとに、選手に付与される識別数字。
TO (テクニカルオフィシャル)	レース全体を司る審判。競技中に不正行為を監視し、注意、警告、ペナルティを与える。不正行為のあった選手に注意、警告、ペナルティを与える事ができる。
スタート	トライアスロン競技の始まりを意味する。バイクスタート、ランスタートのように、各種目のはじまりを示す場合もある。
ウェーブスタート	スタートの際に、カテゴリー、競技力、年齢などにより選手をグループ化し、時差を設けてスタートさせる方法。スタート直後の混雑への安全対策に有効。
エイドステーション	競技コース途中に設営され、水分などが供給される。
トランジション	スイムからバイク、バイクからランへと競技種目を転換すること。ここでの速さがタイムに影響するため、トライアスロンの「第4種目」といわれる事もある。
トランジションエリア	トランジションを行う場所。コースの一部であり、選手以外の立ち入りは厳しく制限される。バイクラック、トイレ、更衣テントなどが設置される。
ドラフティング	おもにバイク競技で先行する選手の直後を走り、スリップストリーム（風除け）を利用、競技を有利に展開する戦術。エイジグループでは禁止されているが、ワールドカップなどのエリートレースでは公認される場合が多い。スイム、ランではエイジグループ、エリートとも禁止されていない。
ペナルティボックス	スイムでのフライング及びドラフティングなどの不正行為があった場合マーシャルにより宣告されるペナルティ。宣告された選手はペナルティボックスに10秒～2分間入り、オフィシャルからの「ゴー」の合図を得て競技に復帰することができる。
フィニッシュ	競技終了のこと。総合フィニッシュのほか、スイムフィニッシュ、バイクフィニッシュなど、種目ごとでも用いられる。ゴールという呼称は、トライアスロンでは使わない。

活動別動画 ラインナップ

目次／一覧

記載 : 活動場所 | 活動日

～ 1章 ～

- 1) エイジエイドステーション（給水）
| 5月14日（日）
- 2) 山下公園内インフォメーション
| 5月13日（土）5月14日（日）
- 3) 来場者カウント（山下公園内・赤レンガ倉庫）
| 5月13日（土）5月14日（日）
- 4) 観客席
| 5月13日（土）5月14日（日）

～ 2章 ～

目次

- 1) サークルウォーク歩行者誘導
| 5月13日（土）
- 2) プロムナード沿道整理
| 5月13日（土）
- 3) コース設営撤去・歩行者誘導
（象の鼻パーク_税関前公道） | 5月14日（日）
- 4) コース設営撤去・歩行者誘導（赤レンガ倉庫）
| 5月13日（土）
- 5) 横断路誘導（山下公園内（バラ園等））
| 5月14日（日）

～ 3章 ～

目次

- 1) 象の鼻パーク内インフォメーション
| 5月13日（土）5月14日（日）
- 2) 象の鼻パークエコステーション・クリーンキーパー
【ハマトラFES内】
| 5月13日（土）5月14日（日）
- 3) 来場者数カウント（象の鼻パーク）
| 5月13日（土）5月14日（日）
- 4) エイジ参加記念品配付
| 5月13日（土）5月14日（日）



World Triathlon
Championship Series
YOKOHAMA
2023

